

会議録

名称	第4回 子ども・子育て会議
開催日時	令和6年11月20日（水） 13：30～15：00
開催場所	産業文化センター6階 6－3・6－4会議室
出席者	西垣吉之会長、杉山章副会長、本多雅人委員、水野香織委員、 竹内育美委員、白木京子委員、田島美紗委員、 杉山一夫委員、渡辺千尋委員、小川伸委員、横山実希委員、 松原里佳委員、藤吉里美委員、別宮理恵委員 近藤亜矢子委員、江口佑美委員、座間美奈子委員 欠席：小林由季委員、中山絵里子委員、山田正継委員 事務局：子育て応援課、子ども家庭支援課、健康管理課、 教育委員会事務局総務課、学校教育課
議題及び 審議結果等 の概要	次第 1 開会 2 健康福祉部参与挨拶 3 議事 (1) 「（仮称）各務原市こども計画」素案について 4 その他 5 閉会
	1 開会 ・各務原市附属機関設置条例により、過半数の委員の出席があることから、本会議が有効に成立していることを報告。 ・傍聴希望者が1名であることを報告。 2 健康福祉部参与挨拶 平素より各務原市にご協力ありがとうございます。今回は子ども計画の議題のみとなっているので、色々、ご意見いただきまして、こどもたちの未来のための計画としてより良い計画にしたいと考えておりますので、ご協力をお願いします。 3 議事 (1) 「（仮称）各務原市こども計画」素案について 《事務局より説明》 (資料①) 《質疑意見》 【副会長】

	・基本目標Ⅰについて意見がある方お願いします。 【委員】 ・6ページの指標の項目で、近くに行きたくなる公園がある中高生の割合とあるが、なぜ中高生にしたのか。中高生は学区にとらわれないイメージであり、いい回答が得られないのではないか。 【事務局】 ・市の最上位計画である総合計画で設定されている指標であり、その対象が中高生である。こども計画としては年代が高いかもしれないが、総合計画と合わせるためご理解いただきたい。 【副会長】 ・いろいろな計画が集まっているということ。 【事務局】 ・こどもの多様な居場所作りということで、背景にはひきこもり対策も含まれており、中高生でもある程度は関係するため指標とした。 【委員】 ・重点をつけるとどういう意味があるのか。予算が多めについたり、人員が配置されたりするのか。 【事務局】 ・重点とつけているが、アンケートでも回答いただいた通りすべてが重要である。その中でも特に重要であるものを挙げており、今の時点で予算がつくというわけではないが、今後5年間を通して重点的に取り組んでいくものである。 【副会長】 ・子どもの意見表明が新しく目標となっており、こどもを中心にしていく大事な目標である。次に基本目標Ⅱについて意見がある方お願いします。 【委員】 ・母子保健のデジタル化の推進で予防接種の記録は医療機関のDXが進んでいないとできないのではないか。 【事務局】 ・予防接種から始めるのではなく、母子手帳アプリで電子化していき、いずれ予防接種等も電子化していく予定。マイナンバーも関係していく。 【委員】 ・岐阜県の中で各務原市が一番助産院の数が多く、助産師会として頑張っている市であり、助産師会と市が一緒に施策を進めている状態。評
--	---

	価値が大事であり、お母さんに必ずアンケートを取り満足度を測っている。助産師会がやりたいことと各務原市がやってほしいことがマッチングできているか確認しながら施策を進めていきたい。先生が行う性教育だけでなく、助産師が行う教育も取り入れていただきたい。 【委員】 ・学校でも市の方針に従い各学年に対して性教育を行っている。自分で自分の身を守れるように教育している。命の現場に携わっている方たちの話を聞くことで、子どもたちの関心や知識が高まると思うので相談していきたい。 【副会長】 ・基本目標Ⅲについて意見ををお願いします。 【委員】 ・学校で使用しているタブレットで悩み相談のアプリを他市ではいれているが、各務原市は導入しているか。 【事務局】 ・他市が導入していることは承知しているが、各務原市では入れていない。どういうものか現在調べている。 【委員】 ・どこの市町村が導入しているのか。 【事務局】 ・岐阜市が令和5年から導入、山県市・関市が今年度から導入している。 【委員】 ・学校では子どもたちの言動や表情をみており、声掛けをするようにしている。アンケートをとり子どもの悩みを聞いている。心の相談員を配置し、先生と話したり活動する場を設けたり、カウンセリングの先生にも来てもらい保護者や生徒の話を聞き、その情報を職員間で共有し連携している。しかし相談しにくい現状はあると思うので、家庭でも保護者に気にしてもらうようにしている。 【副会長】 ・そういったシステムがどのようにつながっているのかバックグラウンドや費用など難しいところもあるが、チャンネルが多いことに越したことはない。 【委員】 ・教育センター「すてっぷ」は様々な取り組みをしているため、もっと周知していくべき。不登校という表現について、もっと子供を尊重し
--	---

たような表現にしたほうがいいのではないか。学校に行かないという選択をした子であり、文章の部分で表現方法を変え、否定的な意味にならないように配慮すべき。家庭が安心できる場であるため、学校に行かないというだけで、子どもたちの目線にたった表現に置き換えて欲しい。

【事務局】

- ・教育委員会と相談しながら表現方法について検討していく。

【委員】

- ・13ページの保育のサービスの充実について、小規模保育所が増えていくと思うが、待機児童が多いということか。また、保育士の確保はできているのか。

【事務局】

- ・来年4月から6施設増える予定である。待機児童はいないが、潜在待機児童がいる状態。第1・2希望の施設に入れない子がやむを得ず自主的に待機する隠れ待機児童がいるのが現状。子ども自体は減っているが、入所率は増加傾向であり今後も増える見込み。令和8年度からこども誰でも通園制度が始まり、月10時間の上限ではあるが、そういった定員を確保するため今回増設した。保育士の確保については、足りているが非常に苦勞している。

【委員】

- ・障がいをもつ子どもの保護者との連携が希薄となっている。幼稚園の先生と連携することが大切だと思う。そういったことを内容に入れて欲しい。

【委員】

- ・保育士の確保には苦勞しており、配慮を必要とする子が増えており人材が加配され、受け入れ人数が減っていつてしまう現状。どの施策が保育士の働きやすい環境の整備なのかわからない。専門家の意見でないと聞いてくれない保護者もいる。小学校はスクールカウンセラーがいるが、保育所や幼稚園でもやっていただけると家庭と園が連携できると思う。それが保育士の働く環境の向上にもつながる。

【委員】

- ・こどもがいるという幸せを感じられる施策を考えるべき。一番大事な時期の過ごし方について、社会全体で考える必要がある。子どもを預け、離れることを良しとする傾向が強い。

【委員】

- ・保育士のやるべきことが多いことが現役保育士の悩みであると思う。

	園だより等が電子化されることで親自身や先生も楽になる。デジタル化することはできないか。 【事務局】 ・公立保育所は昨年度から ICT 化しており、私立保育所について補助しており 9 割ほど進んでいる状態。 【委員】 ・園だよりや記録も電子化している。導入当時は負担が大きいですが、慣れていけば効率化が図れると思う。親さんも慣れていってくれている。 【委員】 ・お便りが現在電子化されているが、私自身は紙のほうが利用しやすいという思いがある。コピー機もないため印刷できない。 【委員】 ・最初に配信し、次の日に紙ベースで送付する運用をしている。バスの置き去りは絶対にないようにしている。 【委員】 ・学校のサポートに携わった際、注意をすると日本語がわからないという理由で逃げる子がいたため、日本語を勉強する施策を入れて欲しい。 【事務局】 ・24 ページに記載している。 【委員】 ・学生に労働について学校でも発信してほしい。他県から来ていて職場の中しか出会えないため、他の企業とも触れ合える街コンがあるといいのではないか。結婚相談所も緩やかな表現にしてあるとありがたい。 【事務局】 ・今年は「そらこん」を開催しており、結婚相談所は長く運営している状態。県や他市町と連携し結婚を支援できないか取り組んでいる。表現方法については担当課と協議する。 【委員】 ・子どもが本当に望んでいる取り組みなのか疑問。学びたいことを子どもに聞いて、引き出してあげるような機会があるとよいのではないか。 【副会長】 ・アンケートの取り方や反映方法も色々あるため難しいことではある。 【委員】
--	---

	・ 19ページの②でこどもを持つことに対する取り組みがないように感じたので、削除したほうがよい。21ページの「出会いの機会」という表現について変えたほうがいいのではないかな。 【事務局】 ・ こちらも総合計画の表現のため、担当課と協議する。 【副会長】 ・ 基本目標Ⅳについて意見ををお願いします。 【委員】 ・ 今までの保育の記録を全て管理できるようなアプリ等があると連携がとれるため、そういった取り組みをしてほしい。通級の個別支援計画等をそのまま高校に持っていけるような連携があると育てやすい。 【副会長】 ・ 個人情報等の問題があり、難しくてうまくいっていない状態があるかもしれない。 【会長】 ・ それぞれで取り組みはしているが、個人情報の関係で制約があるのではないかな。施設からもらった情報を保護者が貼り付けられるシステムがある面白いかもしれない。 【事務局】 ・ 社会福祉課でサービスを受けた場合、プロフィールブックがあり保護者が資料等を綴っていきそれを園等に持っていけるようにしている。 【委員】 ・ 大事な先生の言葉を残していけるような何かがあるといいと思う。 【委員】 ・ 幼稚園の記録は何年保存か。 【委員】 ・ 小学校に引き継がれ、卒業まで保存されている。子どもにどういった特性があるかななどを調べるのに活用している。 【会長】 ・ 開示請求があれば見ることができる。学籍に関するものは20年、他のものは5年間という決まりがある。逆に新しい目で見ることでもある。保護者が残していけるようなアプリがあるといい。 【委員】 ・ 産後ケア事業で医療的ケア児も利用できるようにしてほしい。医療的ケア児の保護者は就労が難しく、不登校も同様だと思うので手を差し伸べてあげるような支援があるといい。
--	--

	【副会長】 ・そういったマイノリティーの方の意見も取り入れていくことが必要。 【委員】 ・プロフィールファイルを持っているが、使い道をわかっていない保護者がいると思う。 【副会長】 ・連携機関が多いお子さんは有効かもしれないが、必要ない場合もあるかもしれない。基本目標Ⅴについて意見ををお願いします。 【委員】 ・35ページの両立支援事業は、就労支援だけではないか。 【事務局】 ・預かり等について記載するなど検討する。 【委員】 ・就労支援で女性だけに特化する必要があるのか。 【事務局】 ・実際に出産等で退職する女性が多いので、そういった方向けの支援のためこのような表現になっている。 【委員】 ・こういった表現は非常に繊細だと思う。各務原市の男性の育休の取得率はどれぐらいなのか。そういったことを上げていく必要がある。 【事務局】 ・参考にさせていただき、検討する。 【委員】 ・来年から改正育児・介護休業法が施行され、企業側も努力をしていくため、男性も育休を取りやすい環境になっていく。市もそういった取り組みをしてほしい。 【委員】 ・市の取り組みをどのように知ってもらうか考えていかないと、生きてこないため、プッシュ型の情報提供や助成をしていく必要がある。 【委員】 ・子育てについて社会では認められづらく、仕事のほうが認めてくれるため子育てが弱くなりがち。こども施策は充実しているが、理念として明確なメッセージがあるとわかりやすいと思う。 【副会長】 ・イメージ図等があるとわかりやすいかもしれない。 【事務局】
--	--

	・検討します。 【会長】 ・子どもがまんなかではあるが親も幸せでないと子どもも幸せではない。一人一人の幸せが大前提であるため、理念でも訴えていくと良い。計画を立てるだけではなく、毎年評価していかなければならない。それぞれの施策についての担当課やQRコードを記載するのはどうか。言葉の表現についても見直し、中身について丁寧に表現していく必要がある。 4 その他 【事務局】 ・名称についての説明（資料④） ・次回の開催について案内 5 閉会
会議資料	資料1 「(仮称) 各務原市こども計画」第4章施策の展開 資料2 「(仮称) 各務原市こども計画」施策一覧 資料3 「(仮称) 各務原市こども計画」指標一覧 資料4 (仮称) 各務原市こども計画の名称(案)について
備考	